

心の ともしび



No.822 2026年10月

「祈り合う」

暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう



いつまでも心に留めて

まつうらのぶゆき
松浦信行神父

手紙の返事に、「あなたとご家庭のために祈っています」と書くことがあります。すると、次に来た手紙には、必ずと言っていいほど「お祈りありがとうございます」とあるのです。

息子さんが就職したけれど、うまくいわずに悩んでいるお母さんから「祈っていただいて助かります」という感謝が。ガンで闘病している人からは「一人ではないと、感じています」、以前私が結婚式を司式したカップルからは「お祈り頂き、元気で結婚生活二十年経ちました」と。このように、祈りによって寄り添えるのだなと改めて感じます。

また、ある人から、病氣見舞いに度々訪ねていた知人が突然亡くなりその人の葬儀と、友人達で以前から計画していた旅行の日とが重なってしまい、両方大切なので・・・と悩みつつ相談をされたことがあります。

私は心で寄り添うことに重きを置き、「旅行に行ってらっしゃい。楽しく過ごして、亡くなった方には、『あなたの分まで楽しんできましたよ』と伝え、その方

の安息を祈りましょう」と答えたのでした。

私に背中を押されて旅行に出かけたその方は、後日「亡くなった人のことをいつまでも心に留めて祈っています」と私に語ってくださいました。

このことを思い出しながら、東日本の震災直後のことを考えました。震災の直後「絆」という言葉が頻繁に使われ、その年は結婚する人も多かったと聞きます。しかし、東京オリンピック決定で世間が沸いた時、「これで私たちは人々から忘れられていく」と被災者の方が嘆く姿に接し、人と人が関わり続けていくことの大切さを感じました。

マザー・テレサが「愛の反対は、憎しみではなく、無関心です」と語っているように、心を

込めて寄り添う祈りは、愛することの一つの表現であると感じるのです。



ホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)

【ラジオ番組「心のともしび」】 月曜日から土曜日まで毎朝、全国ネットで放送中！

各方面で活躍中の執筆者約30名が、その月のテーマに沿って書き下ろしたお話をナレーターの朗読でお届けする番組です。放送されたお話の中から毎月6篇を選んで機関紙に掲載しています。ぜひ、他の方のお話もお聴きください。パソコンやスマートフォンでも「ポッドキャスト」で午後1時（土曜日放送分は日曜日）から配信しております。ラジオが聴けるアプリ「ラジコ」のタイムフリーなら過去1週間以内に放送された番組がお聴きいただけます。

放送時間や「ポッドキャスト」、「ラジコ」などはホームページを御覧ください。

仮事務所 連絡先 (電話：075-211-9341 FAX：075-211-9343)

〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1 カトリック西陣教会青年会館内 心のともしび運動YBU本部